

ZENBUTSU

# 全仏



No.  
553

仏暦2552年10月  
[2009年]



コスモス咲く国分寺(岡山) — 撮影 橋本明禪副会長

目次

- 国内外の災害に対し、本会救援基金を寄託
- 兵庫県佐用町におけるボランティア活動事業報告
- 加盟団体をゆく 第29回 社団法人 日本仏教保育協会
- 「閣僚の靖国神社公式参拝に対する抗議」文を提出
- 全日本仏教会 第45回衆議院議員選挙推薦者一覧
- 仏教スカウトベンチャーフォーラム開催
- 「WFB本部表敬訪問とルンビニー園参拝ツアー」のお知らせ



財団法人 全日本仏教会  
JBF WFB(世界仏教徒連盟)日本センター

## 国内外の災害に対し、救援基金を寄託

今夏、中国地方・九州北部を中心とした集中豪雨、兵庫県・岡山県を中心とした台風九号による災害、八丈島東方沖を震源とする地震、駿河湾を震源とする地震等、国内でも広範囲に多大な被害が出ている。

また、海外においては、台湾において台風八号による甚大な被害が報告されている。

この度、本会では八月二十六日に仏教NGOネットワークに救援物資購入の為の支援金を寄託（関連記事次頁）。

九月二日に、深澤信善事務総長



楊勝任秘書部次長(左)  
深澤事務総長(右)

が台北駐日経済文化代表処と日本赤十字社を訪れ、救援基金を寄託した。

### 台北駐日経済文化代表処

深澤事務総長より楊勝任秘書部次長に義捐金、百万円を手渡した。

同席した羅國隆文化部次長より、「台湾では、現在、救援活動も最終段階までできており、今後は復興活動に力が注がれる。最大の被害を被った高雄県甲仙郷小林村は、土石流に見舞われ跡形もない状態。土石流を掘り返しての救援活動並びに遺体の引上げ作業は、賛否あるが断念する方向である」との報告を受けた。

### 日本赤十字社

深澤事務総長より岡本龍太総務局組織推進部次長兼指導課長へ人道的支援金として、日本赤十字社「緊急セット」備蓄の一助となるよう、百万円が手渡された。

災害支援に対しての情報収集を続ける中、日本赤十字社が「緊急



岡本龍太総務局組織推進部次長  
兼指導課長(左)  
深澤事務総長(右)

セット」を多数配布しており、災害規模の大小に関わらず、必要とされる被災者に配布され、役立っているとの情報を得た。

そのため救援基金より「緊急セット」に特化した寄託を行った。

### 中国仏教会(台湾)へのお見舞い

九月五〜八日、日華仏文化交流協会一行が台湾高雄を訪問。

中国仏教会に対してのお見舞いとして、救援基金より見舞金十万円を日華仏文化交流協会事務局長成田孝英師へ寄託、現地にて、中国仏教会前会長の釈浄心師に手渡された。浄財は高雄県仏教会を通じて復興支援に役立てられる。

### 「救援基金」寄附者名

(七月十一日〜九月十日)

心光院 岡野恵俊  
(社)全日本仏教婦人連盟  
新義真言宗

(順不同・敬称略)

ご支援誠にありがとうございました。

### 本会救援基金にご協力をお願い

本会では、国内外における災害救援や人道的支援に対し、緊急且つ迅速な対応をすべく「救援基金」を常時開設しております。

今後も状況を見据えた上、現地の被災者救援活動を支援いたします。つきましては、加盟団体・各御寺院・仏教徒の皆様、そして、宗派・宗教を超えて、皆様の暖かい浄財を下記口座までお寄せ頂きますようお願いいたします。

記

郵便振替口座

口座番号…001101091704834

口座名義…全日本仏教会救援基金

お問い合わせ先

財団法人 全日本仏教会事務局

電話 03-3437-9275

FAX 03-3437-3260

## 兵庫県佐用町におけるボランティア活動事業報告 (SVA シャンテイ国際ボランティア会より)

本会救援基金より、仏教NGO ネットワーク (BNN) を通じて 社団法人シャンテイ国際ボランティア会 (以下SVAと略す) に五十万円を兵庫県の台風被害救援の為に寄託いたしました。

それに対し、SVAより活動報告が寄せられました。紙面の関係上、要約して掲載します。

### 一・活動目的

SVAは、二〇〇九年八月上旬にかけて発生した豪雨および台風九号による水害に際し、より被害が多く出た兵庫県佐用町の災害ボランティアセンターの運営支援を行うため、八月十七日から二十三日まで、職員二名を派遣した。

災害ボランティアは公的機関が直接的支援活動を行わない私有地(家屋)内において、感染症の発生源となる大量の泥水を掻き出し、清掃・消毒し、家財処分するなどを行う重要な被災地復旧の担い手である。



被災して土砂が散乱する家屋

### 二・被災状況と活動概要

兵庫県佐用町は人口約二万人で水害による主な住宅被害は、死者十八人、行方不明者二人、全壊百六十一棟、大規模半壊百九十四棟、半壊五百四十一棟、床上浸水百七十九棟、床下浸水九百五棟(二〇〇九年九月七日現在、兵庫県発表)という状況下で、被害が深刻な世帯や高齢者世帯などを中心に「泥かき」や家具や畳の洗浄などの清掃作業を手伝うボランティアが必要となった。

現場到着後は、主に町社協本部

と佐用高校(災害ボランティアセンターの中心機能)を往復し、地元社協事務局長や同会長に対してアドバイスを行った。また、被災後二度目の週末(八月二十三日)をむかえて、再び千五百人以上のボランティアが各地から来る事が予測されたため、災害ボランティアセンターの運営支援を行った。

### 三・「水害被災地清掃活動支援プロジェクト」

SVAの独自プロジェクトとしては、「水害被災地清掃活動支援プロジェクト」を行った。被災家屋の清掃作業に使用する高圧洗浄機と掃除機(洗浄後の水分吸い取り用のバキューム機)を購入し、町社協本部と二ヶ所の支所に設置した。同清掃機材は各災害ボランティアセンターの資材管理担当者に託され、被災者からのニーズがあった際にボランティアが使用し床や壁の清掃の際に多用された。

特に泥による被害が大きかった家屋や、老人福祉センターや保育所といった施設で非常に重宝され、ニーズや要望が多かった。

全日本仏教会からの五十万円の支援により、

- ・高圧洗浄機…十七台
- ・バキューマー(掃除機)…三台
- ・ドラム式ホース…三台
- ・ドラム式コード…三台
- ・耐圧ホース…六本
- ・延長電気コード…十四本
- ・ホース取り付け用具…九個

以上を購入し、現地での活動に使用。地元町社協が今回の被災地域内で同清掃機材を使えるように調整し、また他の地域で同様の水害が起きた際にも活用してもらえようように調整を行った。



久崎小学校で活用された高圧洗浄機

# 加盟団体をゆく

## 《第二十九回》社団法人 日本仏教保育協会

今回は、社団法人日本仏教保育協会を訪ね、上村映雄理事長及び高山久照事務局長にお話を伺いました。

社団法人日本仏教保育協会は、昭和四十四年十一月十五日に文部省（現文部科学省）から社団法人の認可を受けて、活動を続けている歴史の長い保育団体です。



上村映雄理事長（右）  
高山久照事務局長（左）

―貴団体の活動で、継続的に、また特に力を入れていらっしゃる点についてお聞かせ下さい。

日本仏教保育協会は、仏教系幼稚園、保育園及び養成機関の全国組織として昭和四年に発足し、昭和四十四年に社団法人の認可を受けました。現在千百九十七施設が加盟し、全国各地の四十七支部にて構成されております。

活動理念としては、生命尊重の保育実践・普及活動であり、仏教保育推進の為に各種機関や団体と協力して調査・研究を行い、教材を作成し提供しています。本協会の特徴は、幼稚園と保育園の両方をカバーしていることとす。幼保を併せて幼児教育を行っている歴史ある団体は本協会だけだと思えます。宗派を超えて教材を共有するというのも本協会だけであると思えます。

具体的な活動としては、二年に一度開催している全国大会です。仏教保育に関して優れた研究者や、実践的に成果を挙げている人や団体を表彰し、仏教保育の振興を図っております。また、その成果を出版物にするなど広くアピールしております。

昭和四十八年には、インド・ブツダガヤに「日本寺」が国際仏教興隆協会によって建立されました。その際、本協会は日本の仏教保育の力をこの地に還元し、保育施設を造ろうとの気運が高まり、加盟園の園児・保護者の寄付金を中心として、日本寺境内に昭和五十年「菩提樹学園」を建設しました。

爾来、運営費の助成を行うとともに、保育指導員の派遣等を通じて育成協力を努めております。「菩提樹学園」は、これまでに約千数百名を超える園児を送り出しており、充実した施設、月謝が無料、園児服や毎日の給食も支給され大変好評です。本協会からも年に一度は学園を訪ねています。

他には、生命尊重募金として「いかせいのちの募金」を日本赤十字社、ユニセフ、ユネスコ、アース等に寄託いたしております。これまでの募金総額はおよそ一億円を超える金額になっていきます。

本協会が主唱する、生命尊重推進のシンボルが「いかせいのち」というスローガンにこめられており、シンボルとして「いかせいのち」の童像が、高野山大師教会の前に昭和三十七年に建立されました。



「いかせいのち」の童像

近年、交通その他の事故により多くの生命が無惨に失われる例が多いため、幼い犠牲者の慰霊碑であるとともに、積極的に生きとし

生けるものの生命を尊ぶ仏教の教えを現し、幼い子の生命を守る事を世に訴える碑として、今後に受け継がれて行く事を願っております。

その他、各地の花まつり、成道会への支援を行っています。また一例としては、愛知と埼玉支部において、園児の描いた仏教画の展覧会が開催され、一般公開もされています。

今後も、世間の色々な状況に対応しつつ、「仏教保育」の理念を貫き、各種事業を継続し展開していく予定です。

—今後の仏教界の在り方について、指針をお聞かせ下さい。

各宗派各仏教団体が、相互理解をより進めて、連携を深めていくことが一層重要になってくると思います。そのためには、情報発信を今以上に強化する必要がありますでしょう。新聞・雑誌・ネット等、様々なメディアに対してアピールの場を設けるように努力していくべきです。例えば本協会が『全仏』

誌に記事を掲載し、各加盟団体、関連団体に積極的に広報活動を行っていくことが、仏教界全体の連携強化に繋がっていくのではないのでしょうか。

そうした活動を通じて、仏教界内の相互理解や共通認識を深めていくことが、他宗教との交流や相互理解の強化の第一歩になり、より活動の幅が広がっていくのではないのでしょうか。

—昨今の様々な社会問題について、感じていらっしゃる思いをお聞かせ下さい。

続発する凶悪犯罪等への対策として、教育に力を入れるべきです。特に幼児教育が重要との声が各所で盛んになってまいりました。幼児教育は、一番純粹な教育のできる時機だと考えております。従って教育する側には、一貫した理念とノウハウが必要不可欠と考えております。

本協会は設立当初から一貫して生命尊重の保育実践と普及を理念として掲げ、提唱し続けてきた歴

史がございます。

現在、こうした世間の流れを受けて、今までの行ってきた活動が間違いはなかったという自信に繋がると共に、現情勢の中で幼児教育がより重要な位置を占められるように、幼児教育の推進を進めてゆくことこそが、昨今の社会問題の解決の糸口になると考えております。

本協会は一つ一つの幼稚園や保育園が、小規模ではありますが目の届く範囲で見ている、という強みはあると思います。社会問題の発端になる事柄、例えば孤食<sup>こしょく</sup>や家庭内暴力の事柄は、いち早く情報や異常が察知できる立場にあると思います。そうして得た情報を、何らかの形で社会に対して還元したり、発信していく、社会問題の解決に寄与できればと思っております。

—(財)全日本仏教会へのご要望やご意見がありましたらお聞かせ下さい。

教育に対しての必要性を、全日

本仏教会としてしっかりとした位置づけをして下さることが、我々をはじめ仏教保育・仏教教育に携わる人々全ての励みになります。強くお願いしたいと思います。

現在、宗教教育推進委員会等では宗教教育に関して議論されていると思いますが、その中に幼児部門等が設立されるならば、是非本協会も関わっていきたいと思います。

各宗派は、子弟・檀家・門徒等の教育には各宗門大学等を通じて力が入っていると思います。保育園・幼稚園の段階での教育にもより力を入れて頂けるような問題提起を相互にできれば良いと思っております。

(談)  
社団法人日本仏教保育協会ホームページ  
<http://www.buppo.com/>

## 無料法律 相談室

長谷川正浩顧問弁護士による、無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務総局03(3437)9275へ事前予約の上、お来し下さい。

### 「全国戦没者追悼式」開催される

八月十五日、日本武道館で政府主催「全国戦没者追悼式」が開催された。

追悼式には、天皇・皇后両陛下、麻生首相ら政府関係者、戦没者の遺族約四千八百二十一人が参列。麻生首相が式辞を述べた後、参列者全員が戦没者三百万人の冥福を祈り、一分間の黙とうをさされた。

その後、天皇陛下はお言葉の中で「戦陣に散り、戦禍に倒れた人々に対し、心から追悼の意を表し、世界の平和とわが国の一層の発展を祈ります」と述べられた。



祈りを捧げる天皇・皇后両陛下

続いて、参議院議長、最高裁長官、戦没遺族代表の式辞、献花となった。宗教界からは、日本宗教連盟の岡野聖法理事長が代表で献花を捧げ、犠牲者の冥福に対し共に祈りを捧げた。本会からは西野良嘉広報文化部長が参列し、共に祈りを捧げた。

### 「第五十一回戦没者追悼供養並びに世界立正平和祈願法要」開催される

八月十五日、日蓮宗主催「戦没者追善供養並びに世界立正平和祈願法要」が、国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて開催された。小松浄慎日蓮宗務総長を導師に執り行われた。会場には、僧侶檀信徒のほか一般の参列者約三百五十人が参列。六角堂の中央に安置された陶棺に向かい声明、読経、修法を行い、表白文にて戦没者諸精霊に追悼の意を表すとともに、世界平和を祈念した。

式中、小松宗務総長は、「先の大戦で軍人、民間人さらに彼我を超えた多くの人々が亡くなった。その尊いものの犠牲のもと、今

日の平和な日本が築かれた。戦争のない、平和な世界の実現にむけて努力していきたい」と奉告文を締めくくった。

続いて参列者全員による焼香が行われた。本会からは、奈良慈徹総務部長が参列した。

その後、(財)千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会の馬野猛彦理事長が挨拶に立ち、同墓苑の創建以来続く日蓮宗による法要に対し謝辞を述べるとともに、遺骨収集の現状について語った。

千鳥ヶ淵戦没者墓苑に納められている遺骨は、軍人、軍属のみならず海外で犠牲となった一般邦人も含まれている。遺族に引き渡すことのできなかつたもので、今年も新たに千四百六体の遺骨が同墓苑に納められ、安置されている遺骨は総数三十五万四千三百三十二体となった。

### 「関東大震災・都内戦災遭難者秋季慰霊大法要」開催される

九月一日、関東大震災と東京大空襲の犠牲者を追悼する秋季慰霊

大法要が財団法人東京都慰霊協会の主催にて墨田区横網の東京都慰霊堂で行われ、本会から深澤信善事務総長が参列した。

法要は輪王寺門跡 東叡山寛永寺神田秀順住職を導師として厳修され、東京都仏教連合会各地区代表が出仕した。高円宮妃久子さまをはじめ約三百五十人が参列した。

東京都慰霊協会の貫洞哲夫会長は、「災害はいつ起こるかかわらないが、これからも平和な世界を作っていくことが今を生きる私たちの使命」と挨拶。東京都の菅原秀夫副知事も、石原慎太郎知事の追悼の辞を代読し、「平和の実現に努め、災害から東京を守ること誓う」と述べた。

慰霊堂には、大震災や大空襲などで亡くなった身元不明の犠牲者ら約十六万三千人分の遺骨が納められており、この日は、約一万五千人が焼香に訪れた。

大震災が起きた午前十一時五十分には追悼の鐘が三回打ち鳴らされ、参列者らは黙とうとして冥福を祈った。

## 総務財政審議会

公益認定法人取得に向けたショー

レビュー結果報告書が提出

九月三日、第七回標記審議会が浄土真宗本願寺派宗務総合庁舎に於いて開催され、朝日ビジネスソリューション（コンサルティング会社）より、公益認定法人取得のための、本会組織の再構築及び運営に関する改善事項が指摘された。

その中でも特に重要な三つの項目について、説明がなされた。

### 一、公益目的事業の検討

- ・公益目的事業の要件の理屈付けを検討（認定法二条4号二十三項目等）
- ・公益目的事業を一括りにすることの検討

### 二、理事・評議員の員数や任期等の見直し

- ・評議員会（評議員）は、理事会（理事）の上位概念
- ・評議員の任期は原則四年（理事は二年以内）。議会の出席

義務や責任等、実質的な運営が可能かを考慮。任期・定員削減・変更等の検討が必要。

・委任状及び代理出席は不可（周知徹底の必要）

### 三、会計基準準拠の検討

- ・負担金規程の見直し（未収金の対応、ルール作り）
- ・適切な予算策定、財政的基盤の確保

### 理事・評議員の人員削減及び選任方法の検討

現在の組織は理事―評議員であるが、新しい定款では評議員―理事となる。さらに理事会の開催頻度は通常三ヶ月一回と定められ、委任も代理出席も認められない。評議員・理事の実質的な役割や責任の重さを考慮し、員数の削減や選任方法の見直しが必要と思われる。

### 負担金の見直しについて

負担金の未収に対してのルール作りも、公益認定法人の性格上、財政基盤の確保が重要な課題であることも報告された。

これら朝日ビジネスソリューション

ョンからの報告を踏まえ、事務総局から負担金の現状と問題点を報告し、今後の審議の方向性を提示し、説明がなされた。

### 今後の対応として

加盟宗派から見て本会への負担金はどのように捉えられているのか。本会が事業を遂行する際、加盟宗派の考え方との温度差があるかないか。加盟宗派との相互理解を深め、信頼の構築という面でも、現状を伺うことが大事と考えている。

また、都道府県仏教会には、市町村合併に伴う組織の弱体化等、それぞれの問題を伺い、それに対処するには、本会はどのような策を考えればいいのか。特に本会の見解としては、都道府県仏教会が元氣を取り戻し、活性化に繋がれば、本会事業達成の為の一番の近道である。

加盟宗派及び都道府県仏教会、仏教団体との繋がりをより深く、太くする為にも、加盟団体の現状を伺うことから始めるのが一番と考えている。

## 財団創立五十周年

### 記念誌編纂部会

八月七日午後二時より本会会議室に於いて、記念誌編纂部会が開催された。

深澤事務総長、野生司部会長の挨拶の後、議事に入った。事務局より現在作成途中の記念誌が回覧され、内容及び表紙デザイン等について議論がなされた。

また、今回の記念誌には五十年記念の三事業（五十周年記念式典、第四十回全日本仏教徒会議神奈川大会、第二十四回世界仏教徒会議日本大会）の模様を収録したDVDも添付される予定であり、編集中のDVDが上映され、内容に関しても検討が行われた。完成した記念誌を最大限活用するための配布先についても検討された。

記念誌は、十月末の完成を予定し、現在校正及び細部の検討を進めているなど現況の報告がなされた。

本会は、憲法の定める「宗教の自由・政教分離」の原則に従い、「首相及び閣僚の靖国神社公式参拝中止の要請」文を七月二十四日首相官邸提出いたしました。八月十五日、麻生内閣の閣僚一名が靖国神社に参拝いたしました。これを受けて、「閣僚の靖国神社公式参拝に対する抗議」文を八月二十日首相官邸に提出するとともに参拝した閣僚のもとへ届けました。

#### 閣僚の靖国神社公式参拝に対する抗議

過日（二〇〇九年八月十五日）麻生内閣の閣僚一名が靖国神社に参拝されたことに対し、全日本仏教会として強く遺憾の意を表明いたします。

私たちが全日本仏教会はこれまで再三（本年は七月二十四日付）にわたり、「首相及び閣僚の靖国神社公式参拝中止の要請」を行ってまいりました。

私たちが仏教徒は、釈尊の御教え「いのちの尊重・慈悲の精神」に反して、戦争にかかわったことへの反省の上に立って、争いのない世界を目指して活動してまいりました。そして、戦後の日本が平和社会実現にむけて努力してきたことに誇りを持つと同時に、これからも国際社会で平和の実現に向け活躍すべきと願うものであります。

首相及び閣僚は、とくに憲法に定められた「宗教の自由・政教分離・戦争放棄」の原則を遵守し、世界平和貢献のため指導的立場を貫くべきであります。今回の参拝はその使命を自ら放棄するものであり、多くの国民の願いを無視するものであります。

よってここに強く抗議すると共に、今後は靖国神社参拝を中止されますよう強く求めます。

二〇〇九年八月二十日

内閣総理大臣

麻生 太郎 殿

財団法人 全日本仏教会

理事長 豊原 大成

#### 第七回 同和・人権問題連絡協議会開催のお知らせ

本会では、同和・人権問題への取り組みをより一層推進するため、第七回同和・人権連絡協議会を開催いたします。

今回は、多磨全生園と国立ハンセン病資料館を会場に講師をお招きしての勉強会、加盟団体におけるハンセン病に関する取り組みや事業・情報・意見交換を予定しております。

これに先立ち、多磨全生園内納骨堂での物故者法要も予定しておりますので、加盟団体の皆様におかれましては、是非とも一名以上のご参加をお願い申し上げます。

#### 記

・ 日 時 平成二十一年十月二十三日(金) 午前十一時～午後四時

・ 会 場 国立ハンセン病資料館

・ 現地集合・現地解散(昼食は本会でご用意致します。)

・ 定 員 四十名

・ 会 費 無料

・ 応募締切 平成二十一年十月十六日(金)まで

参加は、加盟団体の同和・人権問題担当者が対象ですが、勉強会への一般参加が若干名可能です。詳細は左記お問い合わせ下さい。

全日本仏教会 社会人権部

電話 03-3437-9275

FAX 03-3437-3260

### 全日本仏教会推薦

八月三十日に実施された「第四十五回衆議院議員選挙」において、本会は左記の立候補者を推薦致しました。(カッコ内はそれぞれ立候補した選挙区及び比例区)

#### 民主党

- 赤松 広隆 (愛知五区・東海)
- 池田 元久 (神奈川六区・南関東)
- 石川 知裕 (北海道十一区・北海道)
- 打越 明司 (鹿児島二区・九州)
- 大串 博志 (佐賀二区・九州)
- 大谷 啓 (大阪十五区・近畿)
- 大谷 信盛 (大阪九区・近畿)
- 大西 孝典 (奈良四区・近畿)
- 奥村 展三 (滋賀四区・近畿)
- 川端 達夫 (滋賀一区・近畿)
- 楠田 大蔵 (福岡五区・九州)
- 古賀 敬章 (福岡四区・九州)
- 古賀 一成 (福岡六区・九州)
- 小平 忠正 (北海道十区・北海道)
- 後藤 英友 (熊本三区・九州)
- 小宮山泰子 (埼玉七区・北関東)
- 小宮山洋子 (東京六区・東京)
- 近藤 昭一 (愛知三区・東海)
- 笹木 竜三 (福井一区・北陸信越)
- 階 猛 (岩手一区・東北)
- 末松 義規 (東京十九区・東京)
- 菅川 洋 (広島一区・中国)
- 空本 誠喜 (広島四区・中国)
- 高木 義明 (長崎一区・九州)
- 田島 一成 (滋賀二区・近畿)

- 田嶋 要 (千葉一区・南関東)
- 田名部匡代 (青森三区・東北)
- 戸倉多香子 (山口四区・中国)
- 中井 洽 (三重一区・東海)
- 中野 寛成 (大阪八区・近畿)
- 野田 佳彦 (千葉四区・南関東)
- 鳩山由紀夫 (北海道九区)
- 平岡 秀夫 (山口二区・中国)
- 福島 伸享 (茨城一区・北関東)
- 福田衣里子 (長崎二区・九州)
- 福田 昭夫 (栃木二区・北関東)
- 藤田 一枝 (福岡三区・九州)
- 本多 平直 (埼玉十二区・北関東)
- 前原 誠司 (京都二区・近畿)
- 松本 謙公 (北海道十二区・北海道)
- 松本 大輔 (広島二区・中国)
- 松本 龍 (福岡一区・九州)
- 松本 剛明 (兵庫十一区・近畿)
- 三日月大造 (滋賀三区・近畿)
- 三谷 光男 (広島五区・中国)
- 森山 浩行 (大阪十六区・近畿)
- 横路 孝弘 (北海道一区・北海道)
- 横光 克彦 (大分三区・九州)
- 和田 隆志 (広島七区・中国)

#### 自由民主党

- 石田 真敏 (和歌山二区・近畿)
- 石破 茂 (鳥取一区・中国)
- 井上 喜一 (兵庫四区)
- 岩屋 毅 (大分三区・九州)
- 上野賢一郎 (滋賀一区・近畿)
- 宇野 治 (滋賀三区・近畿)
- 江渡 聡徳 (青森二区・東北)
- 衛藤征士郎 (大分二区・九州)

- 大塚 高司 (大阪八区・近畿)
- 大村 秀章 (愛知十三区・東海)
- 奥野 信亮 (奈良三区・近畿)
- 小此木八郎 (神奈川三区・南関東)
- 小野寺五典 (宮城六区・東北)
- 海部 俊樹 (愛知九区)
- 加藤 紘一 (山形三区・東北)
- 金子善次郎 (埼玉一区・北関東)
- 金子 恭之 (熊本五区・九州)
- 金子 一義 (岐阜四区・東海)
- 鴨下 一郎 (東京十三区・東京)
- 河井 克行 (中国)
- 河村 健夫 (山口三区・中国)
- 河本 三郎 (兵庫十二区・近畿)
- 岸田 文雄 (広島一区・中国)
- 木村 太郎 (青森四区・東北)
- 久間 章生 (長崎二区・九州)
- 小池百合子 (東京十区・東京)
- 高村 正彦 (山口一区・中国)
- 小坂 憲次 (長野一区)
- 笹川 堯 (群馬二区)
- 清水鴻一郎 (京都三区・近畿)
- 園田 博之 (熊本四区・九州)
- 竹下 亘 (島根二区・中国)
- 武部 勤 (北海道十二区・北海道)
- 棚橋 泰文 (岐阜二区・東海)
- 谷畑 孝 (大阪十四区・近畿)
- 谷本 龍哉 (和歌山一区・近畿)
- 中馬 弘毅 (大阪一区・近畿)
- 寺田 稔 (広島五区・中国)
- 中川 秀直 (広島四区・中国)
- 中川 泰宏 (京都四区・近畿)
- 長勢 甚遠 (富山一区・北陸信越)
- 西川 京子 (福岡十区・九州)

- 西村 康稔 (兵庫九区・近畿)
- 野田 聖子 (岐阜一区・東海)
- 野田 毅 (九州)
- 林田 彪 (熊本二区)
- 原田 義昭 (福岡五区・九州)
- 平口 洋 (広島二区・中国)
- 平田 耕一 (三重三区・東海)
- 福岡 資麿 (佐賀一区・九州)
- 藤田 幹雄 (千葉四区・南関東)
- 古屋 圭司 (岐阜五区・東海)
- 細田 博之 (島根一区・中国)
- 保利 耕輔 (佐賀三区)
- 牧原 秀樹 (埼玉五区・北関東)
- 増原 義剛 (広島三区・中国)
- 松本 純 (神奈川一区・南関東)
- 三ツ矢憲生 (三重五区)
- 三原 朝彦 (福岡九区・九州)
- 武藤 容治 (岐阜三区・東海)
- 森岡 正宏 (奈良一区・近畿)
- 山際大志郎 (神奈川十八区・南関東)
- 山本 公一 (愛媛四区・四国)
- 山本 幸三 (九州)
- 山本 拓 (福井二区・北陸信越)
- 吉田六左工門 (新潟一区・北陸信越)
- 渡辺 具能 (福岡四区・九州)

#### みんなの党

- 浅尾慶一郎 (神奈川四区・南関東)

#### 無所属

- 宇佐美 登 (東京四区)
- 田中 英夫 (京都四区)

(五十音順 敬称略)

## 「仏教スカウトベンチャー フォーラム」開催

八月二十六日～二十八日の三日間にわたり、比叡山延暦寺及び琵琶湖周辺を会場として、仏教スカウトベンチャーフォーラムが仏教スカウト連絡協議会主催により開催された。本会より深澤信善事務総長が開会式典及び、基調提案の講師として参加した。

仏教スカウト連絡協議会は、ボイススカウト並びにガールスカウト日本連盟に加盟する仏教系各教宗派のスカウト指導者及びその宗務担当者で構成されている。

同協議会には現在、孝道教団、高野山真言宗、金剛禪、聖観音宗、浄土宗、浄土真宗本願寺派、真宗大谷派、真宗興正派、曹洞宗、天台宗、日蓮宗、本門佛立宗、立正佼成会の十三教宗派が加盟しており、健全な青少年育成、仏教精神に基づいた情操教育、加盟宗派相互の連絡提携を目的として活動しており、その一環として本フォーラムが企画された。

フォーラムは「ともに生かそう

いのち」をメインテーマとして、延暦寺会館においてまず三つのテーマ（平和・環境・人権）を各自が選択し、講師による基調提案が行われた。

その後、基調提案を受けて一人の仏教スカウトとして何ができるかを各自分科会等を通じて討論し、最終日に宣言文が発表された。

また、同フォーラムの会期中には朝のお勤めや座禅、諸堂参拝も盛り込まれ、参加者は比叡山の自然と歴史、文化や仏教行事の一端に触れた。



深澤信善事務総長による基調提案

天台宗スカウト連絡協議会ホームページ

<http://www.tendai-scout.jp/>

## BEP(仏教英語プログラム)参加者感想文

BEP(仏教英語プログラム)参加者より、BEP及び昨年十一月に開催された第二十四回世界仏教徒会議(通訳・ガイド等のボランティア参加)の感想文をお寄せ頂きました。(原文掲載)

世界仏教徒会議には、天台宗のお寺の檀家の一人として参加させて頂きました。準備の勉強会では仏教に対する知識の無さを痛感しましたが、毎回有意義な時間を過ごすことができました。また自分自身の心の奥に眠っていた仏教に対する思いが覚醒してくるのがわかりました。それまではあまり関心が持てなかった仏教の書物を読んだり、近くのお寺にも出かけるようになりました。

会議中は世界中から参加された仏教徒の方々が、現代社会が抱える様々な問題に対していかに真剣に取り組んでおられるかを知り、深い感銘と溢れるエネルギーを感じました。

特に私が参加した「自殺」のシンポジウムでは、それまでいかに自分が他の人に無関心で自己中心の人生を送っていたかを反省しました。そしてこの問題に対して自分も何かできることがあるのではという課題をいただいた気がします。

この会議を通して、仏教だけでなく諸外国、とりわけアジアの国々の現状を知ることができ、今まであまり関心のなかった国々にも目を向けるようになりました。

今後この体験を生かせる学び・活動を続けたいと思います。最後に、勉強会で教えていただいた先生方、仏教会の方々、いっしょに学んだ学生の方々全ての皆様に心より感謝致します。

山崎 すみ江

# 事務総局録事

## 八月(十一〜三十一日)

十一日▼局内会議

十五日▼日蓮宗主催「第51回千鳥ヶ淵戦没者追悼供養並世

界立正平和祈願法要」参

列(国立 千鳥ヶ淵戦没

者墓苑)

▼政府主催「全国戦没者追

悼式」参列(日本武道館)

十九日▼第四十回高野山夏期講座

「部落解放・人権夏期講

座」参加(至 二十一日)

二十日▼文化庁宗務課宗教学人室

主催「平成二十一年度都

道府県宗教学人室事務担当

者研修会」深澤事務総長

講師として出席(山口県)

▼「閣僚の靖国神社参拝

に対する抗議」文提出

二十一日▼BNN企画委員会出席

(庭野平和財団事務所)

▼同和・人権問題連絡協

議会打合せ(国立療養

所 多磨全生園)

二十四日▼社会人権審議会(人権

部会)

▼朝日ビジネスソリユ

ション来局

▼局内会議

二十五日▼鳥取県仏教連合会 正

田会長来局

二十六日▼仏教スカウトベンチャ

ーフォーラム出席(比

叡山延暦寺)

二十八日▼無料法律相談室

三十一日▼深大寺第八十四世名譽

住職 谷玄昭大和尚本

葬儀参列(調布市 深

大寺)

▼全日本仏教徒会議栃木

大会企画部会出席(栃

木県仏教会事務局)

## 九月(一〜十日)

一日▼日本宗教連盟幹事会出席

▼(財)東京都慰霊協会主催

「関東大震災並びに都内戦

災遭難者秋季慰霊大法要」

出席(東京都慰霊堂)

▼第十八回ヒューマンライツ

セミナー参加(銀座プロッ

サム中央会館)

二日▼WFB人道支援委員会「台

湾台風被害視察」打合せ

▼台北駐日経済文化代表処へ

救援基金の寄託(目黒区)

▼日本赤十字本社へ救援基金

の寄託(港区芝大門)

三日▼第七回総務財政審議会(浄

土真宗本願寺派宗務所)

四日▼長野善光寺 若麻續事務局

長来局

▼事務打合せ(本願寺築地別

院)

五日▼大本山増上寺第八十七世成

田有恒台下一周忌法要参列

(大本山増上寺 ザ・プリ

ンスパークタワー東京)

七日▼第五十六回「同宗連」研修

会参加(至 八日)

▼(社)全日本仏教婦人連盟大

会出席(京王プラザホテ

ル)

八日▼財団創立五十周年記念事業

DVD作成打合せ(中央区

アクエリアム)

十日▼局内会議

### 機関誌「全仏」広告募集のお知らせ

機関誌「全仏」は、月刊一万部発行され、全日本仏教会加盟団体・各地の寺院の方に購読されております。(年十回発行)

※ 加盟団体からのご紹介もお受けいたします。

全日本仏教会 広報文化部

電話 03-3437-9275

FAX 03-3437-3260

Email kouho@jbfne.jp

### 本会の事業をご理解頂くために

既に加盟団体各位には案内状を送付致しておりますが、本会事業説明の為に、事務総局員を派遣しております。事業説明資料・派遣費等は本会が負担いたします。宗会或は総会の開催等にお時間を頂きたく、何卒宜しくお願い致します。

詳細は左記まで

全日本仏教会 総務部

電話 03-3437-9275

FAX 03-3437-3260

### 事業説明派遣先

曹洞宗宗務庁 東京都仏教連合会

天台宗宗務庁 長崎県仏教連合会

日蓮宗宗務院 滋賀県仏教会

## お仏壇に関する俳句・川柳を募集中 第2回 全国おぶつだん俳句川柳コンテスト

全国の優良仏壇・仏具店で組織する「全日本宗教用具協同組合（経済産業省認可団体）」では、「第2回 全国おぶつだん俳句川柳コンテスト」の募集をいたしております。

これはお仏壇にまつわるなつかしい思い出や、うれしかったこと、心に残ったこと、また家族とのふれあいのシーンなどについての俳句や川柳を考案して、多くの方々がお仏壇やご先祖様への思いを深める機会となれば、との趣旨で企画されたものです。

コンテストは俳句部門・川柳部門に分かれ、入選作品には、賞状と副賞（金賞1点各5万円、銀賞2点各2万円、銅賞3点各1万円）が、また全応募者の中から抽選で、100名に記念品が贈られることになっています。

応募は、一般ハガキに俳句部門・川柳部門を明記のうえ作品を1～2点記載し、住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、〒103-0005 東京都中央区日本橋久松町5-3（株）鎌倉新書内 俳句・川柳事務局まで（11月30日消印有効）。また、専用ホームページ（<http://www.obutsudan-haiku.com/>）及び全国の全日本宗教用具協同組合加盟の仏壇仏具店で応募を受け付けています。

**主催** 全日本宗教用具共同組合

**後援** 全日本仏教会・東京都仏教連合会・全国中小企業団体中央会

BBI(仏壇文化研究所)・日本薫物線香工業会・全国ローソク工業会



## 「WFB(世界仏教徒連盟)本部表敬訪問とルンビニー園参拝ツアー」のお知らせ

財団創立50周年記念事業である「第24回世界仏教徒会議日本大会」の円成を受け、WFB本部表敬訪問（タイ・バンコク）と、本会が関わったルンビニー園（ネパール）復興事業の現地への参拝ツアーを企画いたしました。次号に日程等詳細を掲載します。

**日程** 5泊7日

平成22年2月5日(金)～11日(木)

旅行代金 お一人様（成田発）275,000円  
（関空発）283,000円  
（お2人様1室）

**対象** 加盟団体関係者

**ツアーお問合せ先**

近畿日本ツーリスト 東京団体旅行支店

電話 03-3255-7952 FAX 03-3255-7956

担当 二日市・宮田

※ 詳しくはパンフレットをお送りさせていただきます。



近年のマヤ堂の様子(平成20年1月撮影)



タイ、WFB本部